

妊婦のインフルエンザに対する意識と予防行動

康原夏子¹⁾ 岡本左和子¹⁾ 和田千津子¹⁾ 植原慶太²⁾ 濱田美来²⁾
 尾花尚弥²⁾ 今村知明¹⁾

¹⁾奈良県立医科大学健康政策医学講座
²⁾株式会社三菱総合研究所

はじめに

- 妊娠している女性が季節性インフルエンザを発症した場合には高熱に伴う流産や早産などの危険性がある
- 世界保健機関(WHO)や 米国疾病対策予防センター(CDC) 英国保健省(DH,UK)は 妊娠している女性に対して 季節性インフルエンザの予防接種を勧奨している
- 厚生労働省は個人の自由意思による接種の決定に委ねており、季節性インフルエンザ予防接種対象者に妊娠している女性を含んでいない

研究目的

- ▶ **目的**：再生産年齢層への調査から推察した **妊婦への季節性インフルエンザ予防接種を勧奨する意義の考察**
- ▶ **検討項目**：
 1. 帰属情報との比較
 2. インフルエンザに対する予防的保健行動への意識
 3. インフルエンザ予防接種へのリスク認知
 4. 風疹予防接種との比較

方法

- ▶ **対象**：20-49歳の女性309名 ——医療従事者を除く (わが国における、事実上の再生産年齢)
- ▶ **調査方法**：インターネットによるアンケート調査
- ▶ **実施時期**：2014年3月
- ▶ **回収率**：1100名に配布/309名回答 (回答率28%)
- ▶ **解析**：SPSS version22

インフルエンザ/風疹に関する質問項目

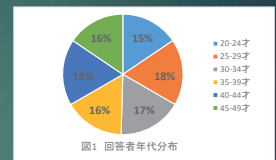
※各質問は、妊娠していることを前提としていない

1. 帰属情報 (年代 学歴 職業 子どもの有無 世帯年収 居住地域)
2. 予防接種意思
3. 予防接種の副作用を知っているか
4. 接種する前に予防接種のリスクを調べるか
5. リスク (予防接種による副作用や発症による症状・合併症) を提示したときの接種意思

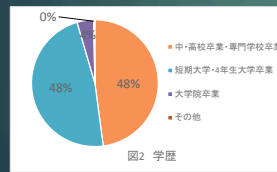
結果 (1)

1) 平均年齢：34.5歳

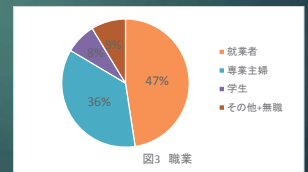
有効数	度数	パーセント
20-24才	48	15.5
25-29才	55	17.8
30-34才	53	17.2
35-39才	50	16.2
40-44才	55	17.8
45-49才	48	15.5
合計	309	100.0



2) 学歴



3) 職業



結果 (2)

- 4) 子どもの有無

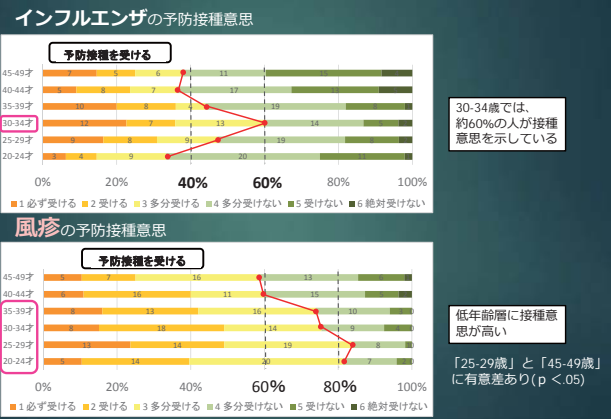
図4 子どもの有無
- 5) 世帯年収

図5 収入
- 6) 治療を受ける時、利益とリスクを比較するか

Q1治療を受ける時利益とリスクを比較するか

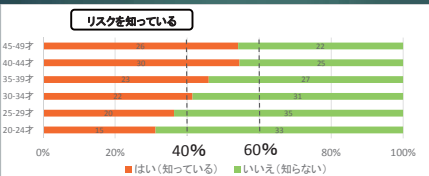
■ 1 必ず比較する
 ■ 2 比較する
 ■ 3 少し比較する
 ■ 4 あまり比較しない
 ■ 5 比較しない
 ■ 6 全く比較しない

結果 (3) 予防接種意思 (風疹との対比)



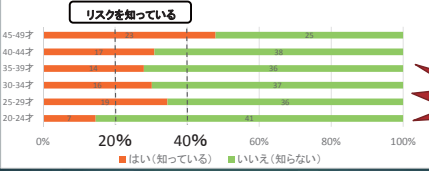
結果 (4) 副作用を知っているか (風疹との対比)

インフルエンザ予防接種の副作用



年齢が高くなるほど、予防接種の副作用を知っている人が多くなる

風疹予防接種の副作用

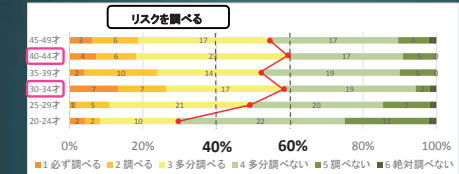


すべての年代で、半数以上が副作用を知らないと言っている

接種意思が高いが予防接種の副作用を知らない人が多い

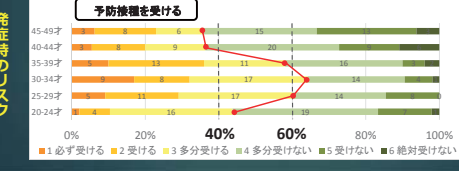
結果 (5) 接種する前に予防接種のリスクを調べるか/発症時のリスクを提示

接種する前にインフルエンザ予防接種のリスクを調べるか



40-44歳と30-34歳で調べる意思が高い
「30-34歳、40-44歳」と「20-24歳」に有意差あり (p < .05)

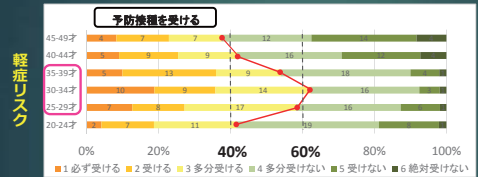
○インフルエンザ発症によって、非常にまれであるが持病のある人では気管支炎や肺炎等の合併、脳炎や心不全を起こすことがある



25-29歳で接種意思が高い
「30-34歳」と「40-49歳」に有意差あり (p < .05)

結果 (6) インフルエンザ予防接種による副作用を提示したときの接種意思

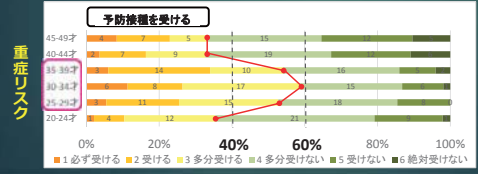
Q. 接種を受けた部分の温疹は10~20%、2-3日で引く全身の温疹などが5~10%出現する可能性



25-29歳では半数以上が接種意思を示している

「30-34歳」と「45-49歳」に有意差あり (p < .05)

Q. 接種後、数日~2週間ほどの間で、発熱や頭痛、けいれん、運動障害、意識障害等の症状や、ショック、蕁麻疹、呼吸困難などの致死的な副反応が出る可能性があるが非常にまれ



25-29歳では接種意思が高い

「30-34歳」と「40-44歳」に有意差あり (p < .05)

結果 (9) インフルエンザ【重回帰分析と一元配置分散分析、その後の検定の結果】

インフルエンザに関するリスク認知の回答を重回帰分析した結果、以下の項目において有意差がみられた

説明変数	標準化係数β					
	予防接種を受けるか	予防接種のリスクを知っているか	予防接種前にリスクを調べるか	予防接種リスク(軽症)の提示	予防接種リスク(重症)の提示	発症リスクの提示
年代	0.089	-0.108	-0.125*	0.124*	0.132*	0.154*
学歴	-0.097	-0.154*	-0.181*	-0.083	-0.048	-0.060
職業	0.02	0.069	0.056	0	0.054	0.039
居住地域	-0.075	-0.097	-0.013	-0.093	-0.035	-0.083
収入	-0.021	-0.032	0.046	-0.014	0.028	0.021
子どもの有無	0.095	0.148*	-0.014	0.088	0.106	0.153*

注 *1%水準で有意 *2%水準で有意

年代について分散分析を行った結果、以下の項目で有意差が認められた

分散分析で年代要因に有意差のあった項目	Tukeyを用いた多重比較で有意差の出た項目
予防接種前にリスクを調べるか (F(5,303)=3.302 p<.05)	「30-34歳」「40-44歳」<「20-24歳」
発症した際のリスクの提示 (F(5,303)=4.207 p<.05)	「30-34歳」<「40-44歳」「45-49歳」
予防接種リスク(軽症)の提示 (F(5,303)=3.344 p<.05)	「30-34歳」<「45-49歳」
予防接種リスク(重症)の提示 (F(5,303)=3.574 p<.05)	「30-34歳」<「40-44歳」

※数値の小さい方が調べる/接種する意欲が高い

考察

13

- ▶ 20歳代前半の女性においては「リスクを知らない、調べない」傾向が強い
- ▶ 第1子出生時の母の平均年齢30.4歳(厚生労働省:平成25年人口動態統計)に相当する30-34歳の女性が、予防接種によるリスク(軽度、重度)を提示しても「接種したほうが良い」という意見であった
- ▶ 上記より、妊婦へのインフルエンザの予防接種を勧奨することに抵抗感や低いのではないかと推察された
- ▶ 妊娠中のインフルエンザ症状の重症化と、発熱による流産や早産の危険率が高くなるなど母体への影響を考えると、日本においても妊婦へのインフルエンザ予防接種を勧奨できる可能性が示唆された
- ▶ 妊婦のインフルエンザ発症の影響について情報が周知されておらず、リスクコミュニケーションが徹底していないことが示唆された
- ▶ 風疹の予防接種では、若い世代で接種の意思が高く見られたが、接種によるリスクを認知している人は少なく、リスクを知らずに接種を希望する人が多い

本研究の限界

14

- ▶ インターネットによるアンケート調査であり、インターネットを使わない人を除外している
- ▶ 対象者309名に限定した結果であり、サンプルサイズが小さい
- ▶ 妊娠している女性を対象にした調査ではない

結論

15

- ▶ 生産年齢層のインフルエンザ予防接種のリスクへの抵抗感や低い、それより接種の利益の方を得る傾向が見られた
 - ▶ 特に、第1子出産年齢層(30-34歳)に上記の傾向が強い
 - ▶ 妊娠している女性もインフルエンザの接種対象者に位置づけ、適切な周知を行う必要がある
 - ▶ 今回の調査結果は、WHOやCDC、英国保健省が勧めるように日本でも妊婦への予防接種を勧奨できるかを考察する材料になる
- 妊婦の予防接種率の向上 → 母体と胎児の安全を確保できる
→ 少子化対策の一助となる可能性
- ▶ 妊婦および30-34歳女性を中心に、インフルエンザ予防接種および発症のリスクに関する正確な情報が伝わっていない
 - ▶ 上記の年齢層に焦点を当てた、インフルエンザ予防接種に関するリスクコミュニケーションが必要である

16

ご清聴ありがとうございました

本研究は
平成26年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C)
「患者の医療リスクの理解と納得のための要因と行動変容までのプロセスに関する研究 26460610」
の一環として実施したものである

回答者の居住地域

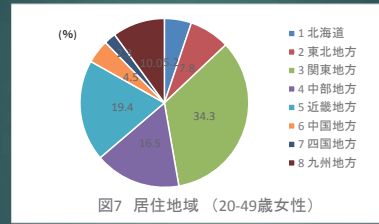
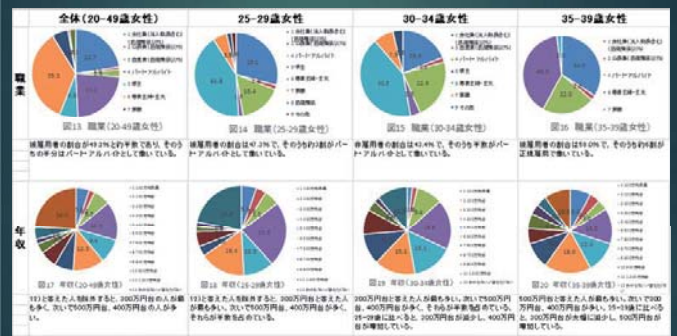
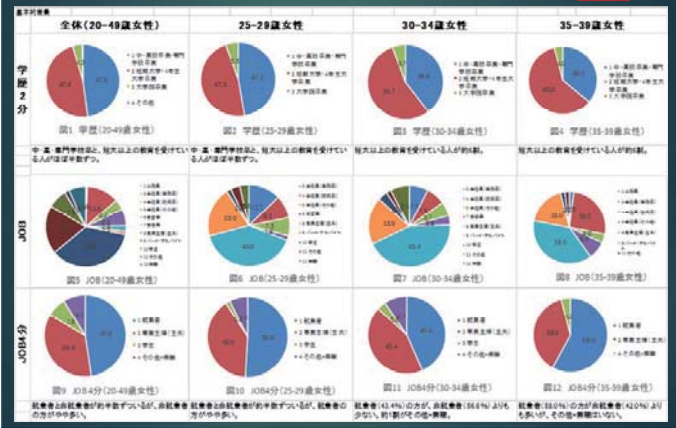


図7 居住地域 (20-49歳女性)

【回答者の多かった地域】
 関東地方 34.3%
 近畿地方 19.4%
 中部地方 16.5%

【回答者の少なかった地域】
 四国地方 2.3%
 中国地方 4.5%
 北海道 5.2%



重回帰

従属変数	予防接種を受けるか		予防接種前にリスクを調べるか		予防接種リスク(軽症)の提示		予防接種リスク(重症)の提示		感染リスクの提示	
	β	γ	β	γ	β	γ	β	γ	β	γ
年代	0.236**	0.183**	-0.125*	0.182**	0.212**	0.150**	0.239**	0.186**	0.310**	0.234**
学歴	-0.100	-0.105	-0.108	-0.132*	-0.067	-0.079	-0.108	-0.112*	-0.075	-0.078
職業	0.101	0.092	0.051	0.065	0.125*	0.077	0.105	0.034	0.126*	0.068
居住地域	-0.036	-0.043	0.019	0.022	-0.018	-0.019	0.02	0.015	-0.016	0.014
収入	0.07	0.084	0.066	0.08	0.048	0.067	0.032	0.052	-0.004	0.017
子どもの有無	0.093	0.032	0.055	0.094	0.115*	0.059	0.154*	0.085	0.166*	0.074

注 *1%水準で有意 **5%水準で有意

一元配置分散分析、その後の検定

分散分析で年代要因に有意差のあった項目	Tukeyを用いた多重比較で有意差の出た項目
予防接種を受けるか (F(5,303)=3.023 p<0.05)	「25-29歳」 < 「45-49歳」
予防接種前にリスクを調べるか (F(5,303)=4.253 p<0.05)	すべての年代 < 「20-24歳」
予防接種リスク(軽症)の提示 (F(5,303)=2.715 p<0.05)	「25-29歳」「30-34歳」 < 「45-49歳」
予防接種リスク(重症)の提示 (F(5,303)=3.582 p<0.05)	「25-29歳」「30-34歳」「35-39歳」 < 「40-44歳」「45-49歳」
感染リスクの提示 (F(5,303)=5.249 p<0.05)	「25-29歳」 < 「40-44歳」 「25-29歳」「30-34歳」「35-39歳」 < 「45-49歳」